

令和7年度 事業所における自己評価総括表（ドットジュニア 千葉中央第3教室（放課後等デイサービス・児童発達支援））

子ども家庭庁が定める「放課後等デイサービスガイドライン」「児童発達支援ガイドライン」に基づいて、さらに強化・充実を図るべき点（事業所の強み）や、課題や改善すべき点を整理・分析しています。この自己評価総括表をもとに、業務・サービスの資質向上や改善をしていくことを目的としています。

<保護者アンケート調査時期：R7/11/17~R7/12/5> <職員アンケート調査及び検討時期：R7/11/17~R7/11/25>

強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
<ul style="list-style-type: none"> 多くの職員から「分かりやすく、安心して過ごせる環境が整っている」との声があり、物理的・心理的な安全を意識した環境づくりが定着しています。 日々の支援は個別支援計画に基づいて行われており、児童一人ひとりの特性や発達段階を意識した支援が実践されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の配置や動線を意識し、児童が見通しを持って行動できる環境づくりを行っています。 朝礼・終礼で児童の様子や支援上の注意点を共有し、次の支援に活かしています。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童対応に関する具体的な支援方法について、職員間で共有する時間を意識的に設けていきます。 環境づくりや支援方針について、共通理解が図れるよう引き継ぎや説明の仕組みを整えていきます。
<ul style="list-style-type: none"> 朝礼・終礼を通じて支援内容の振り返りや情報共有が行われており、チームとして支援に取り組む意識が根付いています。 送迎時や連絡ツールを活用し、保護者や関係機関との情報共有も継続して行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の職員に情報や対応が偏らないよう、支援内容の共有を意識しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動ごとの目的を職員間で共有し、支援の質の向上につなげていきます。 参観日や教室の様子を伝える機会を設け、保護者との相互理解を深めていきます。
<ul style="list-style-type: none"> 事業ポリシーに沿った教室整備や、利用者ファイルの施錠管理、PCのロック管理など、基本的なルールが職員間で共有されています。 研修で学んだ内容を日々の支援に活かそうとする姿勢が見られ、保護者対応においても安心感を大切にしたい関係づくりが行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修で学んだ内容を、日々の支援や対応に取り入れようとする姿勢が見られます。 日常的な連絡や相談対応を通じて、保護者が安心できる関係づくりを意識した対応が行われています。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善した内容は記録・共有を行い、拠点全体の取り組みとして定着を図ります。

弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	拠点として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取り組みや工夫が必要な点等
<ul style="list-style-type: none"> 欠勤時や利用人数が増加した際に、支援人数が不足していると感じる職員が複数います。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠勤職員が出た際などに調整や現状の職員でそのままサービスを行っているが、余剰職員がいるとより安心してサービスを行うことが出来る状況です。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員・児童が安心して取り組める人員の調整並びに知識・スキル向上で対応できる幅を広げていく努力もしていきます。
<ul style="list-style-type: none"> 他害対応や男子児童のトイレ対応など、一部の支援において対応が限定される場面があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 性別や経験の違いにより、役割が偏りやすい体制になっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定の職員に対応が集中しないよう、複数人で支援を担える体制づくりを進めます。
<ul style="list-style-type: none"> 研修は実施されていますが、日々の支援に直結する内容を共有する機会が十分でないという声があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 改善内容や学びを共有し、定着させる仕組みが十分に整っていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なケース共有や短時間の研修を実施し、業務の流れや支援方法を整理・明文化していきます。